

(研究部門)

「読み取り、活用する力」を高めるための指導法の工夫

大阪市内立高見小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校の児童の実態として、明るく素直で、下級生にも親切にできる児童が多い一方で、学習における基礎・基本の定着は不十分であった。令和2年度の大阪市学力経年調査の結果から、答えの根拠を本文から導いたり、主語や述語がなく時系列に沿った文章表記ができなかったりするなど、「読むこと」「書くこと」に課題が見られることがわかった。そこで本校では、令和3年度より、国語科を研究教科とし、研究主題を国語科『「読み取り、活用する力」を高めるための指導法の工夫』と設定して実践を行った。さらに本校の課題である、若手教員育成の観点からも指導の基礎を徹底することを目標に研究を進めてきた。

2. 研究の趣旨

今年度は、「伝えたいことを明確に書いたり話し合ったりする力の向上」と「基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける（言葉、正しく読む）」を研究の視点とし、1・4・6年が物語文と2・3・5年が説明文で授業を行い、授業者の教員の経験年数が偏らないようにした。さらに、できるだけ新教材で実践に取り組み、これまでの教材研究で培った技術をもとに教材分析をするようにした。また、児童が自分の意見を広めたり、深めたりできる交流をするためにどのような手立てが有効であるかに視点をあて、取り組みを進めることとした。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 伝えたいことを明確に書いたり話し合ったりする力の向上

- ・書いたことをペアやグループで交流する。そのためにワークシートを工夫したり、ICTを効果的に使ったりする。
- ・友だちが書いたものを読み、共通点や相違点を見つける。
- ・自分の考えが広がり、深まるような話し合いを行う。
- ・司会者や発表者などを設けて、交流が活発になるように働きかける。
- ・話し合いを明確にするための構造的な板書を行う。

視点② 基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける（言葉、正しく読む）

- ・ 本文を根拠にした考えを書くことができる。
- ・ 「国語タイム」（簡単な読み取りや視写、速読等）「読書タイム」「ICT タイム」を活用して、児童の実態に応じた学習を行い、文章を読み取る力の向上を図る。
- ・ 児童が１時間の学習の中で、「めあて」や「課題」を意識できるように必ず板書する。

4. 研究の成果と今後の課題

（１）研究の成果

① 伝えたいことを明確に書いたり、話し合ったりする力の向上

- ・ 児童が考えたことを交流する際に、交流のポイントを事前に提示したり、司会などの役割を決めて行ったりすることで、児童は、「何について交流するのか」を意識しながら活発に交流することができるようになった。
- ・ 発表ボードやスライドを使うことで、自分の意見と友だちの意見の共通点や相違点が見つけやすくなった。そのため、児童は、様々な友だちの考えを知り、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようになった。
- ・ 児童の実態に合わせて、表や思考ツール、挿絵などを入れたワークシートを工夫した。これらによって、授業の見通しを持って学習し、思考を整理してまとめることができた。

② 基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける（言葉、正しく読む）

- ・ 学校全体で学習タイムの取り組みを継続してきたことで、児童の文章を読み取る力や自分の考えを書く力を高めることができた。
- ・ 発表の話型やハンドサインを使うことに学校全体で取り組み、児童の学年が上がっても統一した指導ができるようにしてきたことで、児童は自分の思いや考えを持ち、それを表現することができるようになった。

（２）今後の課題

- ・ グループで交流したことを全体で共有する際に、「なぜ、そう考えたのか。」「こんな意見が出たけど、みんなはどう思うか。」などさらに考える発問を行い、児童が自分の考えを深めることができるようにする。
- ・ 今後、スライドの活用だけでなく、さらに ICT の活用について研究を進めるとともに、教員のスキルアップを図っていくことが必要である。